

遅植え「コシヒカリ」の栽培暦（震災対策版）

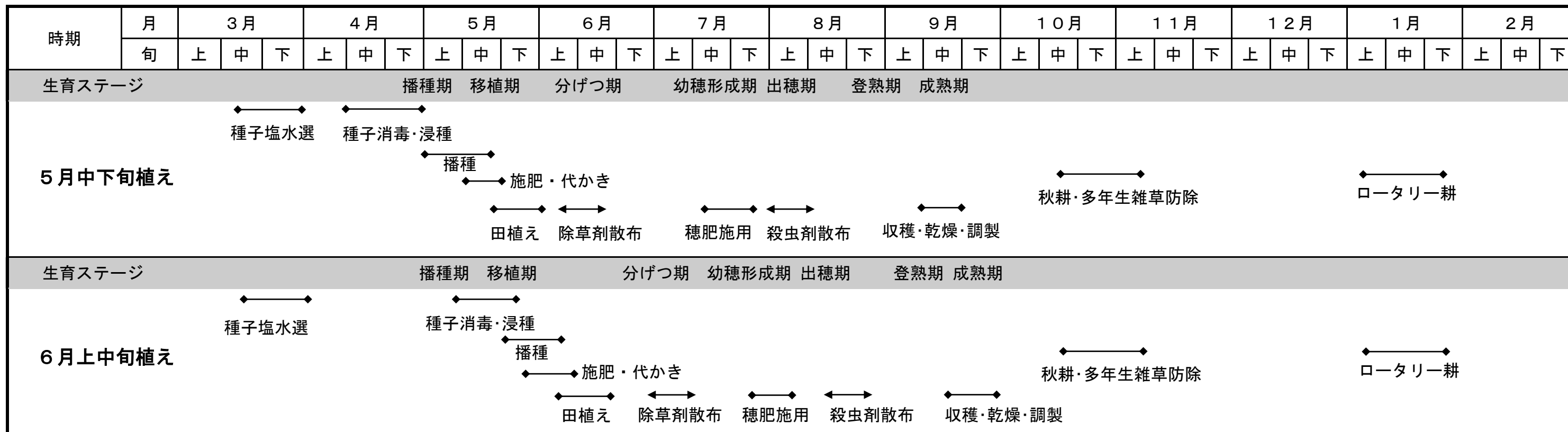
千葉県・千葉県農林水産技術会議
平成23年4月

★用水の確保

- 農業用水を5月上旬から9月中旬まで確保できる地区、ほ場を選定する。
- 登熟期間中のかんがい水の不足は、著しい減収や品質低下につながるので、「最低でも出穂後25日間の用水確保」を図る。

★移植時及び移植の考え方

- 5月20日移植の場合の成熟期は9月15日ごろとなる(千葉市)。
- 6月10日移植の場合の成熟期は9月30日ごろとなる(千葉市)。
- 疎植では減収しやすくなり、品質が低下するので、「栽植密度は55株/坪以上」にする。また、穂数確保のため6月植えでは、「1株植付本数は5本以上」にする。



収量と収量構成要素の目標値

移植時期	目標収量	穂数	1穂粒数	m ² 当たり粒数	登熟歩合	千粒重
	(kg/10a)	(本/m ²)	(粒)	(粒)	(%)	(g)
5月中下旬	510~540	280~320	90~100	28,000~30,000	85	21.5
6月上中旬	330~420			25,000~30,000	70	20.0

施肥量の目安（壤土・湿田の場合 10a当たり）

移植時期	窒素		リン酸	加里	
	基肥	穂肥	基肥	基肥	穂肥
5月中下旬	1.5kg	3kg	8~11kg	7kg	3kg
6月上中旬	0~1kg	3kg	—	—	3kg

★は種・育苗の注意点

- 稚苗移植の場合、田植え予定日の14~18日前には種する。
- 1度浸種した種籾は、発芽率を調べては種する。低い場合は、は種量を増やす。
- 高温期の育苗なので、育苗ハウスの温度管理に注意する。30℃以上の高温は、細菌性病害の発病を助長する。
- 中苗（3.5~4葉）の出穂期は、2~4日早くなるが、穂数は少なくなる。

★雑草防除

- ほ場の発生草種、草種の葉齢に応じた適切な除草剤を使用する。
- シメトリンやジメタメトリンを含む除草剤は高温条件で薬害が発生する恐れがあるので水深を保って散布する(特に砂質土壌)。
- 田植え同時散布をする場合は「田植同時散布」の登録のある除草剤を使用する。
- 除草剤散布後7日間は止水管理とし、排水及び入水はしない。

★施肥の考え方

- 生育期の気温が高いため、慣行に比べて移植期から幼穂形成期までの期間が短くなる。このため、全量一発肥料の使用は避ける。
- 表の施肥量を目安にして基肥を施用し、葉色から穂肥施用の有無・時期・量等を判断する。
- 砂土の場合は、基肥窒素量を表の値より1kg程度上乘せする。

★病虫害防除

- 分けつ盛期が梅雨期に当たるため、いもち病の発生が危惧される。多肥による過繁茂を避けるとともに、ほ場を十分に観察して適期防除を図る。
- 周りのほ場が稲刈りされるとカメムシ等が集まり、急に被害が出ることもあるのでほ場を十分に観察して適期防除を図る。